

令和7年度 指定管理者モニタリング票

所管課名 福祉部 障害福祉課
電話番号 0835(25)2127

1 施設の概要

施設名称	(1) 防府市身体障害者福祉センター (2) 防府市愛光園 (3) 防府市大平園 (4) 防府市なかよし園 (5) 防府市わかくさ園
設置目的	(1) 防府市身体障害者福祉センター 障害者に関する各種の相談に応じ、障害者に対し、機能訓練、教養の向上、社会との交流の促進及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、もって障害者の福祉の増進を図ることを目的として身体障害者福祉センターを設置する。 (2) 防府市愛光園 障害者の福祉を増進するため、障害者就労支援施設を設置する。 (3) 防府市大平園 障害者の福祉を増進するため、障害者支援施設を設置する。 (4) 防府市なかよし園 児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号。以下「法」という。）第四条第二項に規定する障害児（以下「障害児」という。）の福祉を増進するため、法第三十五条第三項の規定に基づき、児童発達支援センターを設置する。 (5) 防府市わかくさ園 障害者の福祉を増進するため、障害者生活介護施設を設置する。

2 指定管理者の概要

指定管理者	名称	社会福祉法人 防府市社会福祉事業団
	代表者	理事長 森重 豊
	所在地	防府市鞠生町12番2号
指定期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日（3年間）	
選定方法	非公募	
(非公募の理由)	障害者福祉施設のもつ特殊性から、事業者が変わった場合、職員や環境が変わること、障害者の病状や精神状態に悪影響を及ぼす恐れがあり、障害者の自立を支援するという本来の目的に反するため好ましくないため。	
利用料金制の有無	有	

3 指定管理業務の運営状況

業務内容 (具体的に)	別紙1 参照
組織体制	○事務局 事務局長1人（常務理事兼務）、事務局次長1人、事務長1人（施設改善担当）、事務職員2人 ○施設 施設長5人、副施設長6人（内管理栄養士1人、児童指導員1人、理学療法士1人）、課長2人（内看護職員2人）、主査1人、主任3人（内公認心理師1人、児童指導員1人、保育士1人） 常勤職員34人 支援員20人、保育士6人、作業療法士1人、言語聴覚士1人、看護職員4人、管理栄養士1人、栄養士1人 非常勤職員21人 支援員7人、児童指導員1人、保育士5人、看護職員1人、事務職員1人、業務職員4人、管理人2人 総合計77人

労務環境	制度及び事業計画に沿った人員配置を行い、適切な業務体制となるように努めています。また、労働条件の明示や、休憩時間の確保、健康診断の実施等、労務管理、安全衛生の保持に努めています。特に非正規職員に対して、できる限り本人の意向に配慮した労働条件での契約に努めています。				
利用状況	令和5年度	令和6年度	令和7年度	年度	年度
①身体障害者福祉センター延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	5,000	4,300	4,300	—	—
実 績 値	5,305	5,145	5,419	—	—
分 析	前年度に比べ、訓練室や貸室の利用者数は減少したが、理学療法士相談や講座・教室利用者が増加したため、全体では増加となった。利用状況については、理学療法士の対応やプログラムの提供に対して、利用者が増加している。				
②愛光園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	13,300	13,300	12,000	—	—
実 績 値	10,682	10,247	8,932	—	—
分 析	定員・送迎の見直しを行ったが、他事業所との併用が多く、利用者数が大幅に減少した。園内でインフルエンザ感染者が数名発生したが、クラスター発生や休園はなかった。				
③大平園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	25,989	24,153	24,624	—	—
実 績 値	19,477	20,703	20,187	—	—
分 析	新規入所者を5名迎え入れ、短期入所、日中一時支援についても定期的な利用があったが、退園が6名あり、定員割れの状況が続いている。施設見学はあるが、現状の施設設備では待機登録者の入所は難しい状況になっている。				
④なかよし園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	6,780	6,580	6,660	—	—
実 績 値	5,964	6,211	6,261	—	—
分 析	児童発達支援については、体調不良や、保育園・幼稚園等の行事参加により、施設の利用をキャンセルされることが多かったが、契約数が増えたこともあり、利用者数は増加した。 保育所等訪問支援については、保護者や保育園・幼稚園等の本事業への理解が深まり、訪問件数を増やすことはできたが、担当者が特別療育の現場を兼務しているため、目標値は達成できなかった。 放課後デイサービスについては、契約者の都合による解約や利用者の長期入院等があり、利用者数が減少した。また、重度の利用者の受け入れにより、療育現場の支援員が不足し、新規契約者の増加が困難な状況であったと考えられる。				
⑤わかくさ園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	3,450	3,300	3,000	—	—
実 績 値	3,051	3,050	2,420	—	—
分 析	新規利用者が1名あったが、体調不良による長期利用中止や3名の退所により、利用回数が減少した。				

4 指定管理者の業務に係る収支状況

①指定管理業務に係る収支

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	年度	年度
指 定 管 理 料	23,849,000	26,602,000	32,067,000		
利 用 料 金	307,370,359	340,483,387	365,097,932		
そ の 他	13,241,595	18,985,627	17,833,834		
就労支援事業収入	9,612,919	9,219,314	8,546,146	—	—
その他の事業収入	2,156,170	4,884,970	6,561,267	—	—
経常経費寄付金収入	5,000	50,000	52,000	—	—
受取利息配当金収入	13	73	674	—	—
その他の収入	1,371,389	1,676,681	1,833,668	—	—
施設整備等補助金収入	0	2,025,000	0	—	—
積立資産取崩収入	96,104	1,129,589	840,079	—	—
収入計(a)	344,460,954	386,071,014	414,998,766		
人 件 費	247,959,521	260,297,308	296,913,562	—	—
光 熱 水 費	12,072,791	13,357,122	14,889,027	—	—
修 繕 費	2,597,083	1,872,464	2,162,773	—	—
そ の 他	91,703,813	97,199,063	93,047,902	—	—
事業費	33,173,508	35,618,323	33,820,397	—	—
事務費	45,433,806	46,279,413	47,958,972	—	—
就労支援事業支出	9,822,678	9,170,319	8,471,236	—	—
固定資産取得支出	0	2,948,004		—	—
積立資産支出	3,273,821	3,183,004	2,797,297	—	—
支出計(b)	354,333,208	372,725,957	407,013,264	—	—
収支(a-b)	-9,872,254	13,345,057	7,985,502		
分 析	利用料金収入は増加しているが、定期昇給、人勤によるベースアップ及び最低賃金額改定等による人件費高騰及び処遇改善手当の支給に伴い、人件費が大幅に増加しているため、指定管理5施設の収支差額は前年より減少した。				

②自主事業に係る収支

	年度	年度	年度	年度	年度
収入計(c)					
支出計(d)					
収支(c-d)					
主な内容					

5 利用者満足度

調査概要	実施方法	(1) 身体障害者福祉センター：①利用者満足度アンケート調査、②日中活動についてのアンケート (2) 愛光園：①食事嗜好調査、②利用者満足度アンケート (3) 大平園：①食事嗜好調査、②利用者満足度アンケート (4) なかよし園：事業所評価アンケート（児童発達支援センター・放課後等デイサービスの保護者や併用している保育所や幼稚園に支援評価を実施） (5) わかくさ園：利用者満足度アンケート調査
	時期	(1) 身体障害者福祉センター：①②令和8年1月5日～2月6日 (2) 愛光園：①令和7年10月 ②令和8年1月 (3) 大平園：①令和7年11月 ②令和7年12月 (4) なかよし園：（保護者）令和7年11月～12月 (5) わかくさ園：令和7年4月 ※令和7年度について
	回収率	(1) 身体障害者福祉センター：①②100% (2) 愛光園：①79% ②74% (3) 大平園：①100% ②100% (4) なかよし園：（児童発達支援センター）80% （放課後等デイサービス）67% （保育所等訪問）保護者70% 事業所100% (5) わかくさ園：77%
	満足度の割合	(1) 身体障害者福祉センター：①訓練室・講座・教室等利用者満足度70% 貸室利用者満足度56% ②記述式のため満足度は集計していない (2) 愛光園：①80% ②72% (3) 大平園：①95% ②85% (4) なかよし園（児童発達支援センター）94% （放課後等デイサービス）90% （保育所等訪問）93% (5) わかくさ園：100%
対応状況		(1) 身体障害者福祉センター：施設の老朽化、訓練器具等の充実、講座や教室などの回数を増やしてほしいなどの要望があった。多数希望のあった講座・教室などについては、実施可能か検討し変更していきたいと考えている。「トイレの便座が冷たい」とのご意見には、電源の入切時間を確認し調整するなどし、速やかに対応した。 (2) 愛光園：①食事嗜好や給食の満足度・要望についてアンケートした結果、「献立が良い」「栄養バランスが良い」と概ね満足されていたが、「野菜が少ない」「味付けが悪い」との声もあった。②概ね満足されていた。①②ともに、調査結果をもとに改善等が必要な事項については、段階的に取り組んでいる。 (3) 大平園：①調査結果で集計された要望や意見等を、給食受託業者へ給食会議等で報告し改善している。給食で困難な希望については、外食にて対応した。②建物、居室の狭さについては改善が難しいため、居室内の整理整頓や室内の清潔を実施して住環境を整備している。 (4) なかよし園：調査結果について、県への提出、保護者や保育所・幼稚園等への紙面配布、調査結果をファイルに綴じ施設の玄関に設置 ホームページへの掲載などを行った。保護者や保育所・幼稚園等の事業所からの意見を参考にしながら改善に努めている。また、保護者や保育所・幼稚園等への情報提供やコミュニケーションの場・機会を作り、事業に対する理解を深めてもらうよう取り組んでいる。 (5) わかくさ園：利用者の活動状況や園での様子、気づき等は、毎日、連絡帳を通じて保護者に伝えており、支援内容について保護者の理解を得ることができていた。「満足した生活が送れています」「適切なアドバイスをいただいて一緒に考えてくれて助かります」等、感謝の言葉の回答があり、利用者本人も保護者も安心して園を利用いただいている。

6 評価

指定管理者による 自己評価	(1) 身体障害者福祉センター：日常生活に支障があり機能訓練を必要とする方々が、安心・安全に日常生活を送ることができるよう、理学療法士や作業療法士による相談を通じて、個々の身体機能の状況を的確に把握し、機能訓練支援や各種講座、スポーツ訓練等への参加を継続的に行うことで、利用者の身体機能の維持向上や体力強化に繋がる支援を提供することができた。 貸室利用については、障害者関係団体を中心に会合を行う場所を提供することで、定期的な活動の継続につながっている。 (2) 愛光園：アンケートでは、概ね利用者の満足を得られた。職員が支援員としての自覚を持ち、利用者個々の特性を理解し個々に合った支援・介助・作業の提供を心がけた。就労支援では、新たな取引先の開拓など情勢の変化に対応できるように努め、8年度に向けて新たな作業を受注するなど利用者の作業の幅を広げることができた。平均工賃は、前年度の19,070円から18,766円に微減となった。また、生活介護では、感染対策の徹底を図りながら、日々の生活の充実を意識し、レクリエーション・創作活動の他に散歩・ストレッチ及び生産活動の支援に取り組むことができた。 (3) 大平園：利用者の希望に沿った園内外の活動の実施や利用者の身体状況に合わせた居室の整備等を行った。利用者の高齢化や長期入院等もあったが、新規入居者を5名お迎えすることができた。建物や設備等の老朽化が顕著ですが、利用者の生活に支障がないようその都度適切に対処を行い、生活空間の整備を実施した。 (4) なかよし園：3事業のいずれも利用者数が目標値を達成できなかったが、新たな加算項目を取り入れることで前年度よりも収益をあげることができた。児童発達支援については、2クラス体制としたことで職員配置は上手く機能した。療育支援については、支援プログラムの5項目を取り入れた内容を提供することで個々の児童に成長がみられた。保育所等訪問支援については、保護者や保育園・幼稚園等が本事業の必要性を深く理解され契約数が増えた。また、保育園への完全移行できたケースもあり、信頼関係を深めることができた。放課後等デイサービスは、重症心身障害や強度行動障害のある学童を積極的に受け入れ、個々の特性に応じた療育支援を行った。利用者の将来に向けた保護者の不安や相談にも丁寧に対応することで信頼関係を深めることができた。 (5) わかくさ園：利用者や保護者から安心・安全を提供しているとの評価が多く得られた。保護者からは、感謝の声も多くいただいております。職員の日々の取り組みが、高い信頼と満足につながっている。
市の評価	施設の設置目的や指定管理業務を十分理解し、協定（仕様書）に基づいた業務を適切に行っている。関係法令の遵守に努め、外部・内部による職員研修の実施により、職員の資質向上を図っている。また、利用者や保護者のニーズに合ったサービスを提供するなど、利用者が快適に利用できるように努めている。そうした取り組みの結果、利用者アンケートにおいて、どの施設も比較的高い満足度を得ていることは評価に値する。 経営状況については、利用料金収入は年々増加しているが、それ以上に人件費の高騰により支出が増加し、前年よりも収支の差額は減少した。また、施設利用者は定員割れしており、今後も人件費や物価高騰が見込まれることから、健全な経営基盤の確立のため、引き続き経費削減や利用率の向上への取り組みが必要である。